下水道普及へ 資料など展示

16日まで東松島

「キレイな水は未来への贈り物」をスローガンに、東松島市下水道展が同市図書館で開かれている。下水道関連製品や環境に関する資料などを展示し、市民に下水道への理解を深めてもらっている。16日まで。

快適な生活や、自然環境の維持に有効な下水道の重要性を知ってもらおうと、市下水道課と図書館がタイアップして企画。見る機会のない排水、汚水の配管、縄文村をイメージした鳴瀬地区のマンホールのふたなどを展示している。

資料・書籍コーナーもある。市の下水道普及率が45・9％で県内自治体で19番目になっている状況や、おでん汁500ccを魚が生息できる状態にするには家庭浴槽（300リットル）で25杯分の水が必要ということも紹介している。

さらに、川や湖の汚れの約6割が家庭雑排水が原因となっていることなどを図や表を使って分かりやすく説明。図書館を利用する子どもたちも興味深げに見入っている。

下水道の重要性を紹介している企画展
＝東松島市図書館

石巻かほく 21年10月9日

水紋

図書館まつり

「6000冊くらい集まりました」

先日、東松島市図書館に行った時のこと。恒例の図書館まつりの目玉である青空リサイクルブックフェアに市民から寄せられた不要本の冊数だ。昨年は集まるペースが悪く、職員も心配したが、今年は順調のようで、ホッとした様子だった。

フェアは、リサイクルを目的に不要本を回収し、欲しい人に無料で提供している。開催時間前から列ができるほどの人気イベントである。

読書の傾向にも癖があるもの。

「わが心臓の痛み」「真夜中の死線」「目撃」「ミスティック・リバー」

翻訳ものの米国ミステリー小説を立て続けに読んだ。著者は皆違うが、これらに共通している人物がいるためだ。さて誰でしょう。

クリント・イーストウッドである。すべて彼が監督した作品の原作である。彼は原作のどこに引かれて映画化したのか。それがつかめれば、彼の作品に対する考え方、スタンスが分かるかもしれないと思った。これも読書の楽しみ方である。

今年は生誕100年ということで、太宰治や松本清張がブームになっている。この機会に彼らの世界に浸ってみるのもいいかもしれない。

読書の秋にふさわしい図書館まつりは、あす18日に開かれる。

（久野　義文）

石巻かほく 21年10月7日

18日に図書館まつり

ブックフェアー開催

東松島市図書館（根元藤夫館長）は、18日午前10時から「図書館まつり」を開く。青空リサイクルブックフェアーや大型紙芝居の実演、工作コーナーなどを設ける。

まつりの目玉であるブックフェアーは、家庭から集まった絵本や実用書などの不用本約6000冊を無償提供する。恒例の科学遊び（午前10時30分）やクイズ（同）、大型紙芝居（午前11時30分）などイベントは盛りだくさん。

また新企画の「パクパク人形劇」は午後2時から開かれ、ジュニアリーダーが劇を披露する。工作コーナーでは仕掛けしおり、貝がらフォトフレーム、スイーツマスコットの手芸を行う。

図書館では、まつりの準備などに取り組むボランティアを募集している。申し込み、問い合わせは同館（☎82―1120）まで。

石巻日日新聞 21年10月16日